

「逃げきり世代」と呼ばせない・・・ 今こそ、世代を越えて対話しよう

・・・「6/12 くらしと政治を語る会」をもとに

CANは、消費者革新懇と共催で「逃げきり世代」と呼ばせないと題し、語り合う会を名古屋市本山の「生協文化会館」で開催しました。この会のきっかけは情報誌「CAN」に掲載した「逃げきり世代・・・」。「世代間の対立」を煽られてはたまらない、「世代を越えて今こそ対話しよう」の主旨でした。

参加者は20名ほど、戦争体験者や女性の立場からの苦言もあり有意義な対話でした。話題は多岐にわたり「年金問題」「消費税のカラクリ」「憲法の値打ち」「戦争の総括」「困ったチャンにならないで」などでした。

本稿は、当日の対話をもとにレポーターの責任で再構成し、誌上でさらに議論を発展させたものです。

CANレポーター 大村昌宏

「逃げきり世代」と 言われたままでいいの?!


6/12(日)
くらしと政治
を語りあう会

ご存じですか？

年金問題をめぐって団塊世代は、「逃げきり世代」と言われています。経済的格差が拡大する中、このままでは世代間対立をあおられるばかりです。そればかりか、日本国憲法のもと戦後70年つちかかってきた「平和」「民主主義」が壊されようとしています。

「個人として尊重」しあい、かけがえのない暮らしを守り、幸福追求の権利を行使するために、主権者として世代の枠を超えて、共に語り合しましょう。

あなたは、このまま黙っていいんですか？



集合日時 6月12日(日) pm 2:00~ 4:30
集合場所 本山 生協生活文化会館 3F会議室
名古屋市千種区稲荷通1-29 (地下鉄本山駅 徒歩3分)

参加資格 ご自分でも一言発言したいし、他の方の発言にも耳を傾けていただける方
当日会場に直接おいでください。
楽しく会話が弾むために差し入れ大歓迎(アルコールも可)

主催 消費者革新懇、消費者行動ネットワーク (CAN)
問合せ先 ☎ 052-265-9258 (CAN 事務局 本山)

年金がまともにもらえる世代、 もらえない世代

- ・ CANの記事は、経済誌「週刊ダイヤモンド」の年金特集がきっかけだったということだけ。

- ・ 特集には「表」が掲載されており自分の年齢がどの程度支給されるか確認できるようになっていた。表を見ると一目瞭然、高齢者ほど手厚い。逆に現役世代は、年金の支給開始年齢はどんどん引き上げられるし、支給額も

どんどん減らされる。負担ばかり増える若い世代ほど不満だ。

- ・ 世代間の対立を煽られてはたまらない。
- ・ 初めて「年金定期便」が届いて「え！これだけしかもらえないっ？」と誰もが驚く。
- ・ 年金が1階部分の国民年金(基礎年金)だけの高齢者は厳しい。2階、3階部分のある厚生年金や共済、企業年金のある方はまだいい。
- ・ 国は、国民年金(基礎年金)は、「生活費をすべてまかなうものではありません」と言い切っている。
- ・ 保険料の支払期間が不足しているとの理由で無支給の方も存在する。
- ・ 団塊世代は、「いいところどりしている」と言われるが、高齢の親の介護、非正規の子どもとの板挟みで厳しい方もいる。
- ・ 国の役割は「所得の再分配」だ。しかし現実には「自己責任論」を振り回し、弱者救済の責任をはたしていない。そればかりか高額所得者には減税し、低所得者には増税だ。儲ける者はますます富み、貧困が拡大している。
- ・ 「消費税」は、社会保障を維持する上で必要だと説明されているがそうだろうか。現実には、消費税の「増税分」は、大企業への「減税」の穴埋めに使われているのではないか。

消費税の「からくり」に気付いてほしい

- ・ 消費税の増税分が「大企業減税の穴埋め」にされているのは事実だ。しかし消費税の「からくり」はそれだけではない。輸出企業には、消費税の還付金制度という「濡れ手に粟」の制度がある。輸出企業は、製品になるまで支払われてきた消費税分を払戻税として還付を受けることができる。
- ・ 今後、消費税を増税しても、年金、医療等の社会保障についてはサービスの「質」や「量」を削減していくのが現政権の方針だ。
- ・ 北欧の国々では税金は高いが、確実に社会保障・福祉・教育等のサービスの質と量が

確保されている。公的サービスが整っているから「子育て」「教育費」「老後」に資金の心配をする必要がないとのことだ。

- ・ 今後、高齢者が増えるのは間違いないのだから「支えあう」仕組みをどうしていくか議論していくことが必要だ。税のあり方は、応能負担が原則だ。

「選挙へ行こう」「市民が考えよう」

- ・ 先日、東京の集会に参加した。その時の若者たちのスローガンが新鮮だった。「選挙へ行こう」「市民が考えよう」と呼びかけていた。参加者は組織動員されたのではなく、一人一人が自分の意志で来ている。「希望」がもてた。
- ・ ヘイトスピーカーに対して、在日の親子が「対話」を求めて手紙を渡そうとしている姿がテレビの画面に映っていた。不十分ながらもヘイトスピーチを規制する法律ができて流れが変わった。ヘイトスピーカーが「惨めそう」に見えた。
- ・ 「敵」をつくり攻撃し排除するのではなく、対話し「共に考えよう」としている、未来を感じる。

「平和」についてきちっと語ろう

- ・ 最近、改めて「日本国憲法」「憲法九条」の値打ちを再認識した。なぜ「平和憲法」を日本国民は受入れたのか・・・戦争を体験し本当の「怖さ」「理不尽さ」を知っているからこそ、これを受け入れ維持してきた。
- ・ これには保守も革新もない。米国に海外に自衛隊を出せと言われても出さなかった。憲法九条を楯にこれを拒んできた。「戦争を知らない」保守系の世襲「おぼっちゃま」議員達が、米国の言われるままに「戦争のできる普通の国」になる、「みっともない憲法を改正する」と言っているのは滑稽だ。
- ・ 「戦争法案」を前に「戦争体験者」が語り始めた。もっともっと多くの方に生きている間に伝えてほしい。
- ・ 「中国や北朝鮮が怖い」という人が多い。だから安保法制が必要だ、そして「米国の核の傘」が

必要だと。

- ・ 弱体化しつつあるとはいえ米国の軍事力は未だ圧倒的だ。米軍の演習「斬首作戦」に北の独裁者は怯えている。窮鼠猫を噛むがごとし独裁者が自暴自棄になる時が怖い。日本海側の原発銀座が狙われたら日本は壊滅する。
- ・ 「軍事力の強化」は緊張を煽るだけだ。「安全保障」には外交、相互信頼の醸成も重要な要素だ。
- ・ 同じ敗戦国のドイツは、今やヨーロッパのリーダーとなっている。日本はいまだに周辺国と緊張関係にある。どこが違うのだろう。
- ・ ドイツは周辺国に謝罪し、自ら戦争犯罪について追求し続けている。「ナチスに全ての責任」を押しつけるなど「？」の面はあるが、ともかく加害国として反省し、周辺国との信頼醸成に一貫してつとめてきた。
- ・ 日本は、連合国との間では、手続きを踏んで国際社会に復帰した。しかし国内的には戦争の総括ができていない。それどころか戦争指導者たちの大部分は、「ホウカムリ」してそのまま居座り続けている。
- ・ 日本国民自身の手で戦争をきちっと総括しないと、周辺国、アジアでの信頼関係は醸成されない。日本ではいまだ戦後は終わっていない。

「こまったちゃん」にならないで

「いつかはクラウン世代」殿

- ・ 人の評価を「役立つか」「役立たないか」だけでする夫たちが、退職して地域に出て孤立している。
- ・ 「いつかはクラウン」と猛烈に仕事をしてきて家族を養ってくれていたのは感謝するけど、その時の習性や価値観をそのまま持ち込むのをやめてほしい。
- ・ 「会社人間」の末路、と言われると寂しい。
- ・ 「お国」につくすが、戦後「会社」につくすに変わっただけだった。
- ・ 「軍国日本」から「民主国家日本」に看板は付け

替えられたが、中身は変わっていない？

- ・ いや、「こまったちゃん」と感じる人が増えていること自体、民主主義が育まれている証拠だ。日本国憲法で「個人として尊重する」と定められたことには意味がある。「身分」や「性別」「人種」「所属」で差別してはならない。「個人の尊厳」を侵してはならないが今の日本の社会の人間関係の基本的ルールだ。
- ・ 今、日本で起きているのは「市民革命」では。主権者である国民が、「主権者」として自覚し、考え行動している。戦後一貫して政権与党は「日本国憲法の骨抜き」をはかってきた。これに対し「日本国憲法の全面的な実施に向けた取り組みを進めさせる」私たちはこの真っ只中にいる。

異論を排除しない、人の意見を聞く、対話の輪を拡げよう

- ・ 今回この会に参加したのは「自分の意見を述べる」と同時に「人の意見もちょうんと聞きましょう」と呼びかけていたから。
- ・ 自由に意見を言えるのはすばらしい。発言するといつも制約や制限がある。
- ・ 人それぞれ「価値観」が違っていい。ただし「自分の価値観」を押しつけないでほしい。暴力で強制するなどもってのほかだ。
- ・ 世代の差を越えて今後も対話の輪を拡げましょう。
- ・ 一方的に敵を作って罵倒、自説を一方的にまくし立てるだけでは共同の輪は拡がらない。自説を堂々と述べると同時に、相手の主張にも耳を傾け、弁証法的に対話し共に熟議、最善の方策を探る。今求められているのはこれではないか。「憲法をめぐって」「民主主義の根幹」について主権者である私たち市民が今こそ対話、語り合っていこう。